



楓

ふうえん

園

特集

大学・大学院の魅力

学長からのメッセージ／おもしろ授業／
大学院の今／社会に開かれた大学／
卒業生とゼミの先生の往復書簡

- 7 NEWS 中高部・小学部・東洋英和幼稚園・かえで幼稚園・
学院／史料室レター
- 11 お別れの言葉
- 12 英和の日々
- 13 この人に聞く 長谷川 玲
- 14 聖書の言葉／広報委員会よりおしらせ／訃報
- 15 英和星空探訪／同窓会より／後援会より／桜プロジェクト報告

TOYO EIWA JOGAKUIN
Public Relations Report



大学 体育会ラクロス部
試合前に円陣を組み、クロスを高々と上げて気合を入れます

大学・大学院の魅力

「あなたがたはこれらの物に見とれているが、
一つの石も崩されずに他の石の上に残ることのない日が来る。」

ルカによる福音書 二十一章六節

楓園は今年度より、五月、九月、一月の年三回の発行になりました。
そのうち九月号は毎年「大学・大学院」特集となります。
大学・大学院の学びの魅力を、さまざまな角度からお伝えします。

学長からのメッセージ

学長
村上 陽一郎



図らずも今の仕事に就くことになって、早くも二年が経過しました。その間、自己独自の成果の無さに、まことに忸怩たる思いですが、これも思いがけず、規定の年齢を超えて、三年目に入ること許され、考えなければならぬこと、実行しなければならぬことが多々あることを日々感じています。大学を巡る客観情勢は、急速に変化しています。もちろん、少子化と経済状況の悪化（昨年の大災害も含めて）が、大学の経営に深刻な影響を与えていることは、書かずもがなですが、中央教育審議会の昨今の議論、あるいは内閣の国家戦略会議のなかでの文教政策に関する議論、あるいは文部科学省が示す教育現場への指導方針などのなかに、もはや在来の大学の理念や、

大学教育の方法などを墨守していることを許さない事態が起こりつつあります。例えば、大学過剰論（少子化のなかで、現在本当に必要とされている大学以上に、大学が増えすぎているのではないかと）、変わらぬ大学などは捨て置いて、むしろ教育実績が上がっている優れた専門学校の育成・強化を図ることこそ、日本社会の将来にとって望ましいことではないか、大学はどこまで学生を勉強させることに成功しているか（いないか）、というような大学への向かい風は、決して無視することができない世論を造り出しています。

他方で、どこの大学でも多かれ少なかれそうですが、大学のスタッフの側では、過去の大学の状態（自分たちが経験してきた）

を外挿することをもって良しとし、危機感を共有できないでいるのが、大まかな現状です。もちろん、世間の動きに右顧左眄し、自身の持つ理想や理念をないがしろにする愚に陥ってはなりません、変えるべきことを変えるに当たっては怠惰であってははいけません、もう一つの真実でしょう。

小職の残された任期は決して長くはありませんが、大学のみならず、学院全体としても、危機感を共有しながら、新しい高等教育の在り方、そして女子教育の在り方を、真剣に模索し、実践に向かって歩みを進めたいと切望しております。皆様のご協力を心からお願ひする次第です。



魅力 1

おもしろ授業

日本研究入門B

Introduction to Japanese Studies B

国際社会学部国際コミュニケーション学科
スイツペル, パトリシア教授

聞き手 ● 国際社会学部国際コミュニケーション学科 専任講師
山本 有香



■プロフィール
オーストラリア出身。オーストラリア国立大学を卒業した後、米国ハーバード大学でPh.D. (History and East Asian Languages) を取得。テンブル大学日本校専任講師を経て、1996年より本学勤務。専門分野は、近世・近代における日本の経済・社会・環境の歴史。研究テーマは、東北地方の鉱山町の歴史の変容、近代経済成長における鉱業、治水問題。



この日のテーマは江戸時代の庶民の食糧事情。学生にも英語を使うよう勧めますが、まずは積極的に参加することを大切にしています

日本のことを英語で学ぶ

山本 「日本研究入門B」は、どのような講座ですか？ 特色について教えてください。

スイツペル先生 今日、私たちが「日本的」と認める、日々の暮らしの中の文化的・社会的パターンの多くは、江戸時代（一六〇三年～一八六七年）に遡ります。それゆえ、この授業では、江戸時代の日本人の暮らしを取り上げながら、①江戸時代の庶民の生活の質は、どのようなものであったか？ ②江戸時代の庶民の生活水準は、同時期の西欧諸国の庶民の生活水準と比べてどうだったのか？ という問いに対して、答える形式となっています。具体的に

は、江戸時代の住居、食べ物、水や衛生状態、そして環境について学び、庶民の生活の質を評価するものとなっています。さらに、日本だけにとどまらず、その当時の日本を西欧諸国文化と比較します。クラスの目標は、①江戸時代の庶民の生活に対する理解および②英語で日本の歴史について話す能力の向上を目指しています。

山本 具体的にはどのように授業を進められていますか？ 英語で行われているのでしょうか？

スイツペル先生 講義は基本的に英語で行い、配布物も英語で書いています。学生たちが授業を理解しやすいように、毎回授業では、パワーポイントを作成し、ビジュアル化するなどして、分かりやすい授業展開をするよう心がけています。

山本 学生たちの反応はどのようにチェックされていますか？

スイツペル先生 現在、七七名の学生が受講しており、一人ひとりの学生となるべく向き合うために、毎回授業の後には、授業についてわかったことをリアクションペーパーに書いてもらっています。全員分を毎回チェックするのは、大変な作業ですが、学生たちの理解度をチェックする上でとても重要な作業です。それ以外には、定期レポートが学期中二回及び期末テストがあります。

シラバス

第 1 回	Introduction : Themes of the Course
第 2 回	Eras in Japanese History
第 3 回	Views of the Edo Period Have Changed
第 4 回	Economic Growth and Standards of Living
第 5 回	Housing in the Edo Period - 1
第 6 回	Housing in the Edo Period - 2
第 7 回	Food : How Well Did Ordinary People Eat ? - 1
第 8 回	Food : How Well Did Ordinary People Eat ? - 2
第 9 回	Water and Sanitation - 1
第 10 回	Water and Sanitation - 2
第 11 回	Uses of the Environment - 1
第 12 回	Uses of the Environment - 2
第 13 回	Comparing Japan and the West - 1
第 14 回	Comparing Japan and the West - 2
第 15 回	Conclusion : How to Evaluate Living Standards in Edo Period Japan ?



江戸時代に関する専門書。文献は英語と日本語の両方を使います

国際協力研究科長 滝澤 三郎



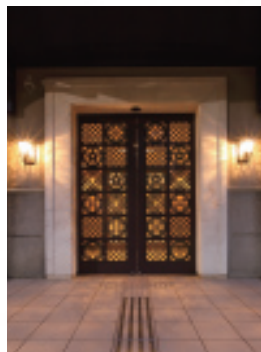
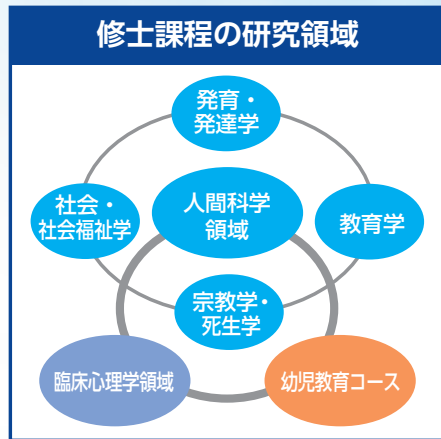
国際協力研究科には、新卒のほかに、キャリアアップを図る社会人(共学ですから男性もいます)や、退職後の社会貢献を目指す「団塊世代」がいます。今後は子

三世代が集う

四〇年以上前、私たちが学生のころの大学院は研究者になることを目指す少数の学生が進学するところでした。今日ではだいぶ様子が違います。グローバル化が進み、激しく変化する今日の国際社会の理解は、高度の教養と複眼的視点が必要で、日本国内にも外国人が増えて「多文化共生」などの課題が生まれています。そんな世界をもっと良く理解したい、何かしてみたいという好奇心や目的を持った人が年齢を超えて大学院に集まっています。

いまどきの大学院

人間科学研究科長 小坂 和子



平日夜間・土曜日中心の開講

英和の大学院の「今」

午後の陽射しが陰るころ、鳥居坂をゆっくりあがり、あるいは六本木駅の喧騒をぬつてぼつぼつと人が集まっています。「英和の大学院にいく」と決めることは、中高や大学進学のように皆と一緒に進んでいくとは違って、とても個人的な選択かもしれません。これまでの仕事を振り返る、新しい知見を吸収する、

資格を取る、臨床心理士になる……目的はさまざまですが、いずれにしても皆と一緒にのびのびと育みながら、自分の時間を作ろうという決断から始まります。その皆さまを迎える学問の場として、母国を一人離れてこられたミス・カートのメルが、そとと育ててこられたこの英和の学問は、たいへんふさわしいように思います。

ここは学ぶ者が学問に寄与する者となり、教える者が学ぶ者になる場所でもあります。

学ぶ者たち

人間科学研究科は、社会人の多い人間科学領域および幼児教育コースと、新卒も半数近く在籍する臨床心理学領域によって特色づけることができます。研究指導は、一人ひとり細やかな対話の時となるでしょう。一方、科目受講では、そ

ここに「科目等履修生」の皆さまが加わりま

実践の場にいる、今自分の人生のテーマとなっている、という方々です。「人間」を追究していく学問として、多様な人生観と、多様な体験が持ちこまれ、教授陣から提示される学問的現実性の枠組みの中で、それぞれに独創的な論が練り上げられていくのです。

大学院の後は？

人間への理解を深め、職場や地域に戻り、より専門性を活かした活動が始まります。本学博士後期課程で博士号を目指すことも可能です。また「英和の臨床」と言っていただけのようになりました。が、優しく温かなころの専門家として、皆さまのそばで黙々と仕事をしている臨床心理士もいます。修了生の活躍もこれから本欄で紹介してまいります。

大学院の価値は終えてから感じられるものですが、最近の修了生には、現在の職場に留まる人のほかに、国際系の研究所に移った人、カンボジアで支援活動をするNGOを立ち上げた人、さらに研

大学院の後は？

育てに息ついた女性も増えるかもしれません。クラスは三世代家族のようです。若い学生は経験豊富な社会人から学び、高齢者は若い学生からエネルギーをもらいます。教員は両方からもらえるのでとても得です。大学院での学びと研究は決して容易ではありませんが、クラスメイト同士が相談し合い、親身になって相談に乗ってくれる教員の支えで、二年から三年のキビタノ(厳しいけれど楽しい)生活を送ります。修了式で証書を授与され、仲間、教員や家族から祝福されるのが一番感激するときでしょう。



少人数教育のため、それぞれの院生にあった指導が受けられます

究を続けるため博士課程に進学した人などがいます。そのようなネクスト・ステップを目指す院生たちが、今日も賑やかな六本木の一角で「静かな知的興奮」の時を過ごしています。

魅力 3

社会に開かれた大学

港区民大学（生涯学習センター特別講座）

港区内の美術館の個性をめぐる物語

国際社会学部教授 与那覇 恵子

港区には数多くの美術館が存在しています。これらの美術館では学問的にも系統だった収集・研究が続けられています。その活動は港区民の文化活動のみならず美術愛好家にも親しまれ、広く日本文化に寄与してきました。このような貴重な文化財産を、広く区民の方々と分かち合う場にしたと、二〇一一、一二年度の港区民大学は標記のテーマとなりました。島山記念館、菊池寛実記念智美術館、泉屋博古館分館、根津美術館、大倉集古館、虎屋文庫、サントリー美術館、パナソニック汐留ミュージアムの学芸員の方に館の沿革、コレクションの特色、こだわりの所蔵作品について語って頂きました。

受講希望者も多く、二年連続の抽選となりました。受講者の年齢の幅も広く、二〇代から八〇代まで。このような講座には比較的少ない若い男性が多いことにも驚きました。仕事を終えて駆けつけたのでしょうか。とにかく皆さん熱心に聴講し、質問しておられました。美術に造詣の深い方も多く、アンケートには「講師の方、もっと専門的な内容を」という辛口の意見もありましたが、「毎回、興味深かった」「すばらしい内容であった」という声が多数寄せられました。港区にはまだまだ多くの美術館が存在します。この講座が継続され港区民と東洋英和を結ぶ知の場所になればと願っています。

■港区民大学 概要

公益財団法人港区スポーツふれあい文化健康財団と大学との共催により開催される港区民大学は、大学において蓄積された研究成果を、港区在住・在勤・在学者に広く公開し、区民との交流を深めることを目的としています。本学では港区民大学開設当初の1997年より「今、世界で起きていること」「世界経済の長期展望」「グローバル時代の英語」「麻布学 異文化コミュニケーションの視点から見る麻布界限」等、毎年さまざまなテーマで開講しています。



美術館を訪れるだけでは知り得ない貴重な情報に耳を傾ける受講生

「研究所紹介」社会技術研究所

社会技術研究所は、文部科学省が主導して二〇一一年に立ち上げた研究領域で、本学では、村上陽一学長や、人間科学部の岡本浩一教授がその草創期に深くかかわってきました。大震災や原子力事故が起こった現在、必要度が高まるとますます高くなっている領域です。本学の社会技術研究所は、その領域の研究推進と、シンポジウムなどの啓蒙事業、そして、国の社会技術研究開発センターから移管を受けた貴重な資料の保管・閲覧提供を目的としています。現在、研究所



社会技術研究所所長 岡本 浩一

■社会技術研究所 概要

社会的な問題に利用可能な人文科学、社会科学を社会技術と呼び、文部科学省の重点研究分野にも指定されています。東洋英和女学院大学の社会技術研究所は、社会技術の研究推進と、社会技術・リスク関連の文献の統合的管理を目的としています。

員は、人間科学部の専任教員四名（岡本浩一教授、柳沢昌義学部長、角藤比呂志教授、小林能成准教授）、国際社会学部の専任教員一名（今野茂充専任講師）で、村上陽一学長が顧問です。研究事業としては、PTSDに対する認知行動療法の実装化のための研究が、実施されています。啓蒙事業は、二〇一〇年度には、学長、研究所長のほか、現役の経産官僚や警察官僚が登壇した「グローバルバリエーションとリスク」のオムニバス講演、二〇一一年度には、鈴木達治郎原子力委員会委員長代理を招いて、学長、研究所長、国際協力研究科長が登壇したシンポジウム「フクシマから何を学ぶか」を開催しました。



シンポジウム「フクシマから何を学ぶか」の様子



卒業生とゼミの先生の往復書簡



中台 恭江さん

■プロフィール
2004年大学社会科学部卒業。国際政治、安全保障について学ぶ。現在、大学同窓会楓美会会長。卒業後、証券会社の営業、教授秘書等を経て、現在は投資信託や年金の分析ソフトウェアを開発している会社のヘルプデスク勤務。

「増田弘先生へ」
謹啓

木犀の香りがほのかに香る趣深さとはうらはらな不安定な社会情勢に後輩たちの事が気にかかります。気がつけば増田先生とのご縁もはや一〇年。先生に巡り合えた奇跡に感謝致しております。

卒業後多くの方と知り合い、改めて英和に連なる方々の温かさを感じております。先生との出会いも先生の温かさを感ぜさせる「もっと学生の生活を充実させたい」と話された時でした。この学生思いの一言から友人と一緒に先生のご支援と後押しのもとオーケストラ部を創部し、創りだす事の難しさ、何かをやり遂げた時の喜びを学びました。この時、増田先生のアグレッシブで飾らないお人柄と専門性に魅かれていたと思います。先生は大きく変わっていたと思えます。「人との繋がり、経験、歴史」を大切にされる先生らしいさまざまな活動、一年間の六大学合同ゼミ、歴史や防衛を学ぶ米軍・自衛隊基地・戦跡を巡る沖縄合

宿、現代政治を肌身で感じる国会議員インターンなどさまざまな活動の中で自分の核を築き、先生がつけなげてくださった「ご縁」が今も私を支えています。

私は現在、仲間と一緒に英和のために微力ながらもお手伝いさせていただけたいという立場におります。増田先生をはじめとする先生方の発案、学長の村上先生、事務部長の雨宮様、前大学同窓会会長新村さんのご尽力とご努力で始まった私たち卒業生による母校への恩返し「楓美会基金」のように、私たちが英和からいただいた愛情を後輩たちに恩返しし、その想いを後輩たちがまた下の代につなげてくれるような連鎖を生み出せたらと強く願う今日この頃です。

謹白

※楓美会基金 大学発展のために一昨年より寄付を募り、昨年初めて海外留学する学生さん一八名に楓美会からお小遣いとして一人一万円、海外から英和にいらした私費留学生一名の学費の一部として四二万円をご寄付させていただきました。何かございましたら、大学同窓会「楓美会」までお問合せください。

国際社会学部

「中台恭江さんへ」
拝復

この度は心のこもった書簡を拝受しました。改めて、あなたにとって東洋英和学院大学がどのような位置を占めたのか、また現に占めているのかが良くわかりました。

「人との出会い」が人生を通して自己の存在を意義づけるものであるとすれば、大学の学生時代こそがその最たるものかもしれません。社会の色に染まる以前の、自由で無色透明な身分であるからでしょう。とりわけ少人数教育を根幹とする英和にとって、ゼミの選択は各人の重要な分岐点になるかもしれません。あなたが私のゼミ二期生三十一名の一人として入ってこられたのは、一〇年前の平成一四年春でした。この期の特色は、落ち着いた雰囲気と活気に溢れた積極性が共存していることでした。国會議員秘書のインターンシップや沖縄研



教授 増田 弘

■プロフィール
慶應義塾大学大学院法学研究科博士課程修了。法学博士。国際社会学部学部長・教授。専門分野は日本外交史、日米関係史、日本政治外交論。

修旅行で成果を収め、かえり祭シンポや六大学合同ゼミでも大いに活躍しました。とくに合同ゼミでは、あなたは一年の長きにわたって全体を取り仕切る幹事長を務められました。相当なエネルギーを消耗し、恐らく落胆、落涙したことも一度や二度ではなかったはずですが、君の活躍が英和の名を高めてくれ、私も鼻を高くした思いがあります。

オーケストラ部創設にもあなたが尽力したことは承知していましたが、私の発言が君を動かしたとは初耳でした。そうであれば、これほど教師冥利に尽きる話はありません。実はわれわれ教師側にとっても学生の皆さんとの出会いが刺激を受ける好機であり、いわば相乗作用をなすものです。今後「人間到处有青山」で行きたいと思う今日この頃です。それではくれぐれもご自愛ください。

敬具

大学四年間の学びの中で、三・四年次に必修の「演習(ゼミ)」は、大きな役割を果たします。卒業生と先生のやり取りを通して、英和のゼミの魅力をお伝えします。



戸張 由希さん

■プロフィール
2006年大学人間科学部卒業。東洋英和には中学部から入学し、大学では人間科学部で社会学の授業を中心に選択。卒業後現在の会社に就職し、コールセンターのスーパーバイザーとして、センター運営やスタッフの育成を行っている。

「藤村ファンゼロー久美子先生へ」
拝啓

初秋の候、先生にはお元気に活躍のこととお慶び申し上げます。

大学を卒業し、社会に出てよくわかりましたが、私が大学生活で身につけたものは、自分の考えを明文化し他者に伝える力・自分とは異なる考え方を受け入れる力・自分に社会で活かせる力・文章力・表現力があるという自信です。

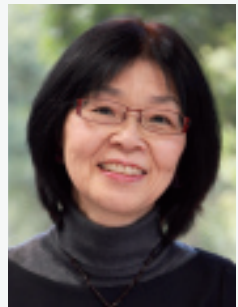
中学から英和生だった私は、学校だけでは活発でしたが、同時に女性だけの環境で過ごす時間が長かった自分が、男性社会に出た時に今までと同様に振る舞えるのだろうか？と不安がありました。また、就職に関してもどちらかといえば消極的でした。しかし、先生の女性学の授業を受け、男性社会の中で不利な立場であっても、女性と男性が対等な立場で働けるよう戦っている女性たちがいることを知り、ジェンダーフリーに向かっている今の流れを途絶えさせ

たくない、自分にも何か出来るのではないか、という気持ちが生えました。

ゼミでは毎週課題があり、次週のゼミまでにレポートをまとめ、ディスカッションを行っていました。メンバー全員が忌憚なく意見交換ができる、明るく活発な雰囲気でのゼミでした。それぞれの学生に個性があり、価値観があり、才能があります。私の場合は文章力・表現力が高いことを先生やメンバーに認めていただき、それが現在の仕事に就く自信に繋がりました。また、ディスカッションを行う機会が多かったので、会議や報告会で臆することなく自分の意見が言えたり、レポートを発表する機会が多かったことが会社のプレゼンテーションで役立つたりなど、ゼミで培われた力は現在の仕事でも活かされています。これからも社会で活躍できる英和生を育てていってください。

敬具

人間科学部



教授 藤村 久美子

■プロフィール
コロンビア大学大学院比較教育研究科でPh.D. (Comparative Sociology of Education) を取得。1989年大学開学と同時に本学就任。専門分野は比較教育学、女性学。

「戸張由希さんへ」
拝復

過去二十三年にわたり、多くの優れた学生たちの教育指導に携わる機会に恵まれましたが、中でも、ゼミ生であった戸張さんは強く印象に残っています。英和の高等部出身の学生の多くはしっかりと学力や積極性を身につけているだけでなく、個性豊かなように思います。それは、女性教育に強い使命感を持った先生方の下で個々の人格が大切にされ、

のびのびと成長できる環境の中で学んでこられたからだと思えます。戸張さんも正にそうした学生でした。その戸張さんでさえ、社会に出て思いつきり自分の能力を発揮し、活躍できるのだろうか、とやや不安に思われたというところで、びつくりしましたが、分かる気もしました。まだ日本では政治や企業への女性の参画が十分にすすんでおらず、男女共に仕事と生活を上手く調和できる環境も整備されていないため、若い女性が目標に出来るようなロー

ルモデル、つまり生き方のお手本を身近に見つけにくいことが背景にあるように思うからです。戸張さんは女性学の授業を受けたことで自信が芽生え、未来への展望が開かれたようですが、学生全員が受けている女性学の狙いは過去の女性の活躍・貢献、また、変化し

つつある女性の生き方などを学ぶことで、「女性」としての自分により自信と誇りと希望を持ってもらうことなのです。私は幸いに今も熱心なゼミ生に恵まれています。ゼミでは相変わらず、自分でしっかり考える力や意見交換する力を高めることに重点をおいていますが、最近はそのような訓練が就職活動の際、面接やプレゼンテーションの場で役立つと聞かされます。就職難の時代といわれている中、学生たちはそれぞれ頑張っています。戸張さんには後輩たちの良きロールモデルとして、今後もおおいに力を発揮していただくことを願っています。

敬具

●同窓生子女枠特別推薦入学試験のご案内

東洋英和女学院大学では、東洋英和女学院の大学、旧短期大学、中学部・高等部卒業生の御息女、御孫様、御姉妹、在学生の御姉妹を対象とした入試を実施します。
資料をご希望の方は、大学入試広報課（電話 045・922・5512）までお問い合わせください。

出願期間 二〇二二年一〇月九日（火）～一〇月一九日（金）消印有効
試験日 二〇二二年一〇月二十八日（日）

「武勇伝」を伴う進路達成を願って

進路指導主任 野村 正宣



〈社会系〉第2・3集会室にて



〈理系〉メディアルームにて

初めてのホームカミング

毎年四月、授業公開・母の会総会のある土曜日に高三生徒向けの進路ガイダンスを行っています。受験の一年を終えて大学に入学したての卒業生を中心に二十数名を招いて受験生としての一年間の過ごし方を伝えてもらうのが主な目的です。卒業生の側からすれば、制服ではない恰好で初めてホームカミングするときでもあり、会話が弾みます。最近ではこの日に二十数名が集まるというのを同学年のネットワークで聞き及んでいるのか、呼んでもいない方々までこの日に合わせて母校を訪れるという現象まで起きています。新しい大学生活の新鮮な話を沢山聞けて嬉しい一日です。

伝わってほしい

どんな卒業生に来てもらうかの人選において幾つか心掛けている事があります。聴く高三生徒が同様に志望しそうな大学・学部である事は勿論ですが、その進路を掴むに至る過程の困難さや思いの強さに重点を置いているのです。長い受験勉強ロードの中でスランプや伸び悩みがあったり、楽な方への誘惑さえ時にはある中で、それる事なく克服し強い意志力でロードを進み通したその事を伝えてほしい、伝わってほしいと願うからです。聴く高三生徒が自分とかけ離れた「すごい人」として聴くのでな

く、次は自分の番だと鼓舞して「次なる武勇伝」の作り手として進み行く事を期待しているのです。武勇伝の自身は一人ひとり違っていてよいはずですが、そういうものを進路選択のこの時期に持てるか否かは、その後の人生の歩みにおける「脚力」に左右する重要なポイントです。「自分なりの武勇伝を持てる進路達成を」というのが常々願うところです。

卒業生から学ぶ場を一段と

四つの分科会に分かれてのガイダンスが終わって卒業生が昼食をとっている控室には、個別相談を求める生徒が絶えません。卒業生たちも昼食そっこのけで親身になって応じてくれます。自分が使った赤本(過去問題集)を後輩のためにと寄付してくれる人もいます。こういう光景を見てみると、私たち教員も入り込めない英和生と卒業生(英和人?)の親密さを感じ嬉しく思います。卒業してもホームカミングする機会が進路・学習支援領域でも色々と用意されています。中1、中2でのチューター制学習支援も然り、高一での卒業生有職者の話を聞く会も然りです。主に大学生を対象にした「カエデOGバンク」というものが整えられ始めて数年経ちますが、次は「職業人編」も作って、今の英和生が卒業生から学ぶ貴重な機会を一段と充実させていきたいと願っています。

高3進路ガイダンス実施の様子

〈人文系〉小講堂 47名
Aさん(千葉大学 教育学部 中学校教員養成課程英語専攻1年)
Gさん(青山学院大学 文学部 比較芸術学科1年)
Yさん(上智大学 総合人間科学部 教育学科1年)
Hさん(国際基督教大学 教養学部 アーツ・サイエンス学科1年)
Sさん(慶應義塾大学 文学部 人文社会学科1年)
Yさん(早稲田大学 人間科学部 人間情報科学科1年)

〈社会系〉第2・3集会室 54名
Hさん(東京大学 文科二類1年)
Mさん(一橋大学 商学部1年)
Tさん(早稲田大学 法学部1年)
Uさん(明治大学 政治経済学部 経済学科1年)
Kさん(慶應義塾大学 法学部 政治学科1年)
Kさん(青山学院大学 国際政治経済学部 国際政治学科1年)

〈理系〉メディアルーム 55名
Sさん(東京理科大学 理工学部 建築学科1年)
Oさん(麻布大学 獣医学部 獣医学科1年)
Aさん(慶應義塾大学 看護医療学部 看護学科1年)
Kさん(お茶の水女子大学 理学部 情報科学科1年)
Hさん(北里大学 医学部 医学科1年)
Yさん(香川大学 医学部 医学科1年)

〈東洋英和女学院大学院内推薦 及び芸術・実技系〉111教室 19名
Sさん(東洋英和女学院大学 国際社会学部 国際社会学科2年)
Hさん(東洋英和女学院大学 国際社会学部 国際コミュニケーション学科2年)
Kさん(東洋英和女学院大学 人間科学部 人間科学科2年)
Tさん(多摩美術大学 美術学部 絵画学科 版画専攻2年)
Mさん(東京音楽大学 音楽学部 音楽学科 器楽専攻ピアノ1年)

【タイムテーブル】 9:45~11:00過ぎ 進路ガイダンス
11:00過ぎ~11:30 卒業生昼食(117教室)
11:30~ 終礼後12:00過ぎまで117教室にて卒業生に個別質問可

楽しい体験を通じて学ぶ

世紀の天体ショー

五月二十一日、金環日食を観測することができました。国内での金環日食は九州南部から関東地方までこれだけ広い範囲で観測できるのは実に九三二年ぶりといわれる、世紀の天体ショーです。

小学部では登校時刻を早めて、七時一五分から登校しても良いこととしました。校庭で日食グラスをかけて太陽を見つめると、円い太陽が少しずつ欠け始めました。雲が多い日だったので、「もっと見たい」と思う頃には雲に隠れるなどしながら、今か今かその瞬間を待ちました。そして、雲の切れ目からきれいなリングの形をした光が輝いたときには、校庭中に大きな歓声が響き渡りました。お友だちや先生方、それに送っ



校庭から観測しました



(撮影：山本 大輝 教諭)



理科の自由勉強
4年 村山 優綺

てきてくださったお母様方や出勤前のお父様方と一緒に見る事ができたことも、大切な思い出となりました。

二年生の日記より

「はじめて見た金かん日しよく」

二年 山田 瑚子

わたしはあさ、五じにおきました。それはなぜかという、金かん日しよくの日だったからです。わたしは、はりきって学校に行きました。

学校についてわたしは、きがえて、したくをして、いそいでそとに出ました。そのとき、みんな金かん日しよくのグラスを目にあてて、金かん日しよくが出てくるのをまっています。でも、くものせいで、金かん日しよくは、見えません。

しばらくしてから、わたしは、金かん日しよくのグラスを目にちかづけてたいようを見たら、金かん日しよくができました。わたしはびよんびよんはねました。また、金かん日しよくが見られたらうれしいです。

四年生社会科 水の学習

社会科教諭 鈴木 陽子

四年生社会科「水」の学習では、東京都水道局の「水道キャラバン」をお迎えして、たくさんの方の事を教えていただきました。

水と森の関係や水はどのように家庭まで届けられるのかなど、多くの方々に支えられて私たちは安全な水を使うことができることを、改めて感じました。また、浄水場のしくみを理解するために、水がどうやってきれいになるのか実際に実験してみると、その結果に大変驚かされ、大きな効果があることを知りました。この授業を通して感じた水の大切さを忘れずに、これからも生活していつてほしいと願っています。



ろ過の実験

お礼の手紙から

「水道キャラバンのみなさんへ」

四年 旗 叶和子

今日は、楽しい授業をありがとうございました。クイズや実験、とっても楽しかったです。

実験を初めてやったので、勉強になりました。にごる薬を入れたらすぐにきたなくなつて、にごりをかためる薬もすぐにかたまつてすごいなと感心しました。かたまつたのが、さんごに見えました。これが浄水場の沈んでん池です。次にろか池の実験をしました。ろか池は石などできれいにすると勉強していたけれど、本当にその通りでした。水を赤い線まで入れるとたしかにきれいになっていました。きつと浄水場では、私たちが実験したのより大きい装置を使うと思います。

じゃ口をひねるとすぐに水が出てきて、私たちは当たり前のように水を飲んだり使ったりするけれど、水がじゃ口までどこのにすく長い時間とたくさんの方のおかげだということに感謝の気持ちがたくさんあります。そして、水を大切に使うことが大切ではないかとじっくり感じました。



水と森の関係を模型を使って学びました

初めての散歩

五月二五日に五歳児の子どもたちと芝公園に散歩に出かけました。毎年六月に母子で遠足に出かけますが、昨年は震災の影響で遠出をやめて幼稚園で過ごした学年ですので、皆で散歩に出かけるのは初めての経験です。

当日は、幼稚園で遊んでからの出発でしたが、遊んでいる間からそわそわとしていて、この日の片付けの早いことといったら。身支度を整え、いざ東京タワーを目指して出発です。東京タワーに着き、下からタワーを見上げてみますとあまりの大きさに驚き、なぜかてつぺんに向かって「ばいばい」と手を振っていました。そして目的地芝公園に到着しました。

着いてすぐにお弁当の時間です。お弁当後は公園内で自由に遊びました。小さな小川の中に飛び石がある場所が子どもたちのお気に入りでした。軽々と進む子どももいれば、怖々と一つ一つ進む子どももいます。そのうちに力量以上のものにもチャレンジしたくなり、えいっと足を出して渡ろうとしますが「ぼちゃん！」と足がしっぺり水の中に入りました。それでも「成功した！」と満足そうでした。遊具のない公園です

が、崖や飛び石を上り下りしたり、笹舟を流したり、石拾いをしたり……。何もないところでも楽しめる子どもたちを見て、七月のキャンプが楽しみにになりました。

あつという間に時間は過ぎ、幼稚園に帰る時間です。身支度が出来た子どもから、三グループに分かれて帰りました。帰り道、東京タワーがビルの陰で見えなくなる場所で「東京タワーが消えちゃった」と言うのと「雲が隠したんだよ」「もっと高いビルで見えなくなったんだね」と話しながら楽しく帰ってきたグループもあれば、「もう歩けない」「お風呂入りたいなあ」と疲れを見せるグループと反応はさまざまでしたが、初めての散歩は子どもたちにとっても楽しい一日になりました。



大学付属 かねで幼稚園

芝生のある庭で

二〇一〇年の夏、緑化の支援を横浜市より受けて園庭のまんなかに芝生を植えました。「青々とした芝生を自分たちで管理するのは無理なのでは」と心配されていたのですが、今は子どもたちと共に芝生のある生活を楽しめるようになってきました。

芝生は、植えてから根が定着するまで三年はかかると言われています。二〇一〇年度の冬も二〇一一年度の冬も、秋までの地面の緑は、跡形もなく何も見えなくなっていました。私たちは、茶色の地面をみつめて、「芝は枯れて、もう生えてくることはないかもしれない」と思わされたこともありました。しかし、やがて桜の花が咲く頃、ちゃんと小さな小さな芽が出てきました。



かけっこやフラフープを楽しむ子どもたち

入園式の頃から五月半ばごろまでは、養生の時期です。「しばふのあかちゃんをそだてています。なかにははいらないでくださいね」という小さな看板を出し、柵替わりにすのこをぐるりと置いておきます。「芝生のあかちゃんが大きくなったら遊べるね」と言いながら、時を過ごしました。子どもも保護者も保育者も、芝生を育てるなかまです。試行錯誤しながら過ごしていた六月のある日、横浜市の委託を受けた日産スタジアムのグリーンキーパーの方が直接園にいらして芝生を見て指導してくださいました。その折の「しっかりと根がはっているから大丈夫」とのことばに保育者たちは深い安心を覚えました。

初夏、芝生が生えそろいました。緑のじゅうたんが、美しい庭を演出してくれます。子どもたちは、そこにござを引っ張って来てままごとをしたり、ダンスをしたり、のんびりと寝転んだりします。また、芝生の周りがちようどトラックになり、そこで繰り返し繰り返しかけっこすることになったりもします。かねで幼稚園の遊びの環境が、芝生があることによって、また豊かになったと思われています。

— 学院刊行物のご案内 —

『カナダ婦人宣教師物語』英訳本
**Canadian Woman
 Missionaries
 at Toyo Eiwa in Japan
 1882-2006**



2010年に刊行された『カナダ婦人宣教師物語』の英訳本が今春刊行されました。困難に立ち向かって東洋英和を創り、育てたカナダからの宣教師の先生方の足跡をたどった日本語版は英和関係者以外にも読者を得ていますが、カナダ在住の有賀誠一合同教会牧師も感動をもって読んでくださいました。そして有賀牧師とアーウィン牧師は、婦人宣教師たちがカナダ本国では忘れられかけていることを嘆かわしく思っていたので「この本はぜひカナダの人々にこそ読んでほしい」と翻訳の労を取ってくださいました。

刊行にあたり、学院から宣教師の先生方への感謝を託し、カナダ合同教会をはじめとするカナダの関係者に贈っています。カナダからは、もっと広く配りたいとの要望が来るほど好評をもって迎えられています。また、カナダに限らず日本語の読めない海外の機関や人々との交流の際、学院をより深く知っていただく学院紹介のためにも使われています。

購入希望の方には、1冊2,000円、郵送の場合2,200円で販売いたします。

お問い合わせ先: 史料室
 TEL: 03-3583-3166 FAX: 03-3583-3329

帰宅困難者の受入協定を締結

昨年三月の東日本大震災の教訓を生かすべく、学院各部では災害が発生した場合に備え、保護者の皆さまのお力添えもいただきながら、飲料水、食料、毛布・懐中電灯・簡易トイレなど防災用品の充実や、緊急時連絡体制の構築などに努めているところです。

こうした一方、学院は三月一日、港区との間で防災対策基本条例に基づく『災害時防災協定』を締結しました。この協定の内容は、大地震などの災害が発生した場合に、この地域を訪れている帰宅困難者を一時的に受入れるというものです。具体的には、平日八時三〇分から一七時までの間に災害が発生した場合に、

「本部・大学院棟」の一部を帰宅困難者の一時受入れ場所とし、受入れた方々に対して飲料水や食料等を提供します。

港区からの要請を受け、地元において長い歴史を刻む教育機関として、地域社会に対する貢献の観点から協定締結を行いました。

なお、非常時に帰宅困難者を受入れる場所は、学院の事務職員だけが勤務しているエリアに限定されています。また提供する飲料水・食料類も生徒、教職員用とは別に調達することとし、非常時に消費した分については港区から補填が受けられることになっています。



史料室レター No.8

受贈資料展示のお知らせと資料寄贈のお願い!



史料室では、東洋英和の歴史を物語る史料を集めて保管しており、ただいま、ミス・カートメルのロッキングチェアをはじめとして、この一年間の受贈資料の展示を行っております。

展示品は多岐にわたります。長野彌先生や江良頭三郎先生自筆のお便り、戦前のものでは小学部発行の「小羊」や身分証明書など。そして中高部合服(長袖夏服)の制服や、一九八六年卒の母が使用したランドセルと現在在中学部在学中の娘が着用した初代の校内服など、英和生のその時代の姿をはっきりと見ることが出来ます。また卒業生、現・旧教職員のご著書からは皆さまが多方面で活躍されていることがわかります。それぞれ英和で過ごされた方々の実績を知ることが、東洋英和の教育の実態や結果を知ることでもあります。

受贈資料の一部ではありますが展示期間は十一月までの予定です。本部・大学院棟一階の史料展示コーナーをどうぞ見学なさってください。

卒業生の方々、現・旧教職員の方々、さらに関係ご遺族の方々に、重ねてお願いいたします。東洋英和に関係があると思われる資料がございましたら、量の多少にかかわらず、ぜひ史料室にご一報ください。例えば、母国に帰られた宣教師の先生からのお手紙が残っていないでしょうか? 特別行事のプログラムはしまっておりませんか? それは

「過去から現在へのプレゼント」であり、現在を生きる生徒たち、私たちに学院の歴史を体感させてくれます。またそればかりでなく、英和に限らず近代女子教育史やキリスト教教育史、文化史、あるいはカナダとの交流史研究に活かされ、ひいては「未来へのプレゼント」ともなっていくことでしょう。

お別れの言葉



■田島 信之先生

一九一五年生まれ。一九三九年東京大学文学部宗教学宗教学史学科卒。一九四二年、米国ユニオン神学校大学院にて神学修士号を取得。青山学院大学文学部教授・文学部長、弘前学院長・大学長・短期大学長を歴任。一九八〇年一月より東洋英和女学院短期大学長・教授に就任。一九八五年四月から一九八九年三月まで本学院院长。二〇〇四年四月まで常務理事・常任理事。一九八八年勲三等瑞宝章受章。二〇一二年一月三十一日永眠。

温和な笑顔とやさしい声

元大学人間科学部教授・宗教主任
大学名誉教授
浜辺 達男

「温和な笑顔とやさしい声」が田島信之先生の魅力的な人格そのものを伝えてくれます。

自分を語ることが少ない田島先生ですが、先生が東京大学を卒業された後、米国のニューヨークのユニオン神学校大学院に留学された時に、次のような出来事がありました。御自身の文章が語ります。

「一九三九年私は船でパナマ運河を通り、ニューヨークへ行った。二年後の一九四一年十二月七日、日本軍のハワイ・真珠湾の攻撃があった（中略）。私の大学は十二月十八日から休暇に入った。アメリカの学生たちは、クリスマスには家族が共に集まり、親しい人々を呼ぶ習慣があった。私はヘステイニング・ホールとい

う寮で生活していたが、友人たちは皆家へ帰って行った。私はひとりぼっちで敵国人として寮に生活していた。十二月二十日頃、来客があった。恩師バン・デューセン先生であった。先生は、『今日から私の家へ来てクリスマスのお祝いを一緒にしよう。身の回りのものを持っていらつしやい』と、暖かい言葉をかけてくれた。（後略）（田島信之著「国際化時代と日本の教育」より）。

翌年五月まで勉強し学位を得て帰国された。この太平洋戦争勃発の直後に敵国で勉強を続けられた際に受けたバン・デューセン先生の恩義を、戦後になって、涙をもって何度も先生に語られました。この体験が「温和な笑顔とやさしい声」の田島先生の

人格の礎でした。家庭でも「笑顔のパパ」であったと先生の娘さんが語られていました。

田島先生が青山学院から弘前学院に赴任する時、「ぜひ一緒に来て欲しい」とのことで行きました。地方の私学ゆえ、院長・学長としてのご苦労もあり、私も苦楽を共にすることが出来ました。わが家族も親しくさせて頂きました。さらに東洋英和女学院大学が開学された折には私を弘前から呼び戻して下さり、定年まで先生のもので働けたことは、私の生涯にとって忘れることの出来ない大きな恵みでした。

田島先生と「英和の家風」

元短期大学英文科長
元大学人間科学部長
大学名誉教授
新富 英雄

『この度、九五年の輝かしい伝統を持つ名門校東洋英和へお招きを受け、光明前学長の後任として短期大学長に就任いたしましたことは、私の心からの喜びであり、また光栄でもあります。』これは一九八〇年一月十一日に行われた学長就任の辞の冒頭である。この時の田島先生は六五才とは思えぬほどみなぎる情熱に溢れ、新天地での新たな志を抱いての登壇であった。後に何うことであるが、弘前をやめ東京に戻り浪人の身であった時、降つてわいたような英和からのお誘いに喜々とされたそうである。短期大学創立以来初めての専任学長でしかも男性ということもあり、我々教職員とりわけ男性陣は諸手を挙げて歓喜した。そうこうし

ているうちに教員のたまり場の居酒屋にも何度か足を運んで下さり、短大の将来構想など意見を戦わせることもあった。田島先生とおつき合いはこれを機に二十数年続くことになる。また、個人的なことではあるが、東山荘でのカンフアランスからの帰り、二度ほど先生運転の車に便乗させていただき、下高井戸までの車中、公私にわたり色々とお話をしたものだ。

しかしながら坊ちゃん育ちの田島先生にとっては当時の院長や事務長と短大との間で板挟みになり、苦しい時代でもあったように思う。院長を兼務されるようになると、就任当時の快活さはうすれ我々と接する機会も少なくなり、短大の重要問題で

相談に伺うと「新富さん、これは英和の家風でね」と「家風」という新しい言葉を口にされることが多くなった。この「家風」という言葉で多くの難題を処理なさろうとする困難な時代を過ごされたことと思う。常任理事をお引きになられたのが二〇〇四年四月だから、四分の一世紀、学院に貢献されたことになる。

その先生がこの一月に九七才で逝去されたことを知ったのは、この三月であった。知らせが遅かったのは先生のご家族がお控えになられたからであろうか。先生は学長・院長・常任理事と我々には雲上人的存在になられたわけであるが、「家風」という言葉もまた田島流名スピーチも残念ながら二度と聞くことはない。

東洋英和幼稚園

■入園式 4月13日(金)

■歯磨き指導 5月24日(木)

岸玲子先生をお招きして、子ども歯について実習・講演をしていただきました。

■父母の会講演会 6月2日(土)

水戸聖ステパノ教会牧師・愛恩幼稚園園長斎藤英樹先生をお招きして「キリスト教保育と幼な子へ震災から」と題して震災支援についてお話を伺いました。

■母と子の遠足 6月6日(水)

雨でしたが、四歳児・五歳児がお母様と一緒に、はまぎんこども宇宙科学館に行きました。

■引取り(徒歩降園)訓練

6月8日(金)

晴天の中、お母様と幼稚園から自宅までできるだけ徒歩で降園しました。



引取り(徒歩降園)訓練時園庭にて

大学付属かえで幼稚園

■未就園二歳児

■親子カンガルークラス

5月11日(金)より毎週金曜日幼稚園の二階ホールにて。お母様方は子どもものの傍らで手作業を楽しみます。

■五歳児父子ワーク・II

5月12日(土)

6月23日(土)

年長組の父と子が働くために園にやって来ました。お父様方は力を合わせて子どものための遊具を作ってくださいました。お昼ご飯作りは、子どもたちの担当でした。

■四歳児親と子の集い

6月18日(月)・25日(月)

保護者の方に子どもたちの園での様子を見ていただきました。



5歳児父子ワークでのシーソー作り

小学部

■入学式 4月10日(火)

満開の桜のもと、喜びに包まれた八〇名の新入生が入学しました。

■運動会 5月26日(土)

青空の下で行われた運動会。団体競技も徒競走も真剣勝負です。

■遠足 6月8日(金)

雨のために延期となった遠足でしたが、学年の親睦を深めることができました。

■土曜参観 6月30日(土)

三時間目には、親子が交流できる催しもので盛り上がりました。

■夏期学校 7月

主題聖句「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。」を思いながら、集団生活を学びました。



運動会 高学年リレー

中高部

■中学部入学式 4月6日(金)

新中一の一九五名が新生活への希望を胸に入学しました。

■高二修学旅行

5月14日(月)～18日(金)

阿蘇、熊本、長崎を巡り、各地の自然や文化の美しさを感じました。長崎では平和について学びました。

■高三修養会

5月16日(水)～18日(金)

テーマは「One Seeker」。講師に渡邊義彦先生(柿の木坂教会牧師)をお招きし、将来について深く語り合いました。

■高一カンファレンス

6月21日(木)～22日(金)

講師に中村謙一先生(亀戸教会牧師)をお招きし、自分を見つめ、学びました。



高三修養会

大学・大学院

【大学】

■オリエンテーション合宿

5月18日(金)・19日(土)

二年ぶりの合宿となりました。今回は、両学部合同だったので賑やかでした。

■保護者と教職員の懇談会

6月30日(土)

一七一人もの保護者の方々に出席いただきました。保護者から、色々な質問、要望があり、今後の参考にしたいと思います。

【大学院】

■博士課程オリエンテーション

4月14日(土)

〈人間科学研究科主催〉支援の現場で活躍する社会人の皆さんと博士号学位取得をめざす研究生生活について語り合うひとときとなりました。



保護者会での学長の挨拶



私が15年間IT業界で走り続けてきた理由

ソフトバンク、グーグル、LinkedIn。そして、私が向かう場所

東洋英和女学院大学社会科学部社会科学科を卒業後、IT業界の第一線で活躍されている長谷川玲さん。これまで歩いてこられた道のりと、その根底にある「奉仕」の思いを語っていただきました。



LinkedIn 日本での事業開始・記者会見にて

一九九七年から一五年間、ソフトバンク、グーグルなど、数々のIT企業でキャリアを積んできた。昨年九月には、米国生まれのビジネス特化型ソーシャルネットワークサービス(以下SNS)、リンクトイン(LinkedIn)の日本法人に社員第一号として入社。関係者に着任のお知らせをした際、返ってきたコメントは、こうだ。

「長谷川さんは、どこまでも走り続けまますねえ」

その通りだ。転職先のリンクトインでの主なミッションは、日本事業立ち上げ。大変なのはわかっている。でもこの道を選んだ理由は、私がITによってかけがえない経験を神様に与えてもらい、大きな使命を感じているからだ。そもそも、私がITに目覚めたきっかけは、父の海外赴任で高校

時代をカナダで過ごしたことにさかのぼる。当時(一九九〇年頃)はインターネットがなかったため、離れて暮らしていた兄と姉に国際電話やFAXでコミュニケーションをとっていた。高校の英語と勉強が辛かったので、家族の電話タイムは特別だった。会話の後、受話器を置く瞬間は、いつも心がふわりと楽になった。私は、このふわりと楽をくれた国際電話が大好きになった。

一九九二年に帰国してからも海外とのやりとりで国際通信サービスを活用した。大学ラクロス部に入学し、日本ラクロス協会学生連盟の海外渉外部でも仕事を始める機会に恵まれた。一番の思い出は、元アメリカ代表のコーチ三名を招き、学生二〇〇名を対象にした夏合宿。コーチと参加者との連絡手段は、電話とFAXのみ。特にコーチとの連絡は、時差で苦労したが、綿密なやりとりの甲斐もあり、スムーズに事が運んだ。学生とコーチたちが融合し、忘れられない感動体験を提供することができた。この体験から、私は、通信業界に就職し、多くの人に同じような体験をしてもらいたいと思うようになった。

新卒で外資系メーカーに入社し、

翌年、通信業界へ転職した。インターネット時代の幕開け、業界再編。度重なる組織変更で最終的にソフトバンク社員になっていた。知識と能力に限界を感じていた。働きながらMBAを取得した。そして、一〇年以上勤めた通信業界を卒業し、グーグルに転職した。

グーグルでは、世界一の技術、ビジネス、仲間と出会った。グローバルで動く開発。申し分のない職場環境。毎日充実していたが、小規模な環境で自分の実力を試してみたいと思っていた。その矢先、投資家からベンチャー企業に誘われたので、迷わずグーグルを退職した。ベンチャー企業では、大企業の手法が全く通用しなかった。即判断、即実行。迷っている上司に怒られた。でも、そのお陰で、起業家精神をみっちり叩きこまれた。

一年間のベンチャー経験を経て、リンクトインで新たな一歩を踏み始めた。リンクトインは、一億七五〇〇万人のプロフェッショナルが使うSNS。インターネット上で世界中の職業人をつなぎ、成功に導くことがミッションだ。これは、私をはじめ通信業界に行きたいと思った動機と一致する。不思議なことに、経験した業

■はせがわ れい/世界最大級のプロフェッショナルSNS、リンクトイン(LinkedIn)日本法人社員第一号。シニアマーケティングマネージャーとして、日本での会員拡大を目指す。週末は、カトリック麻布教会にて広報部長も務める。

LinkedInプロフィール
<http://jp.linkedin.com/in/reihasegawa>

Twitter
@rei_hasegawa

※この記事の内容は、個人の見解であり、所属している組織や団体とは関係ありません。



職場にて

務がすべてここで活かされている。まるで神様がここに呼んでくれたように思える。結局一五年間、IT企業で走ってきたが、私が向かう場所は、まだ分からない。でも明確なのは、素直に神様の言葉を聞き、人から求められたことに奉仕し続けるということ。最終的な答えが出るまで、奉仕を通して探したい。さあ、行こう。こうして私は、今日も走り続けるのだ。

聖書の言葉

わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。
人がわたしにつながっており、
わたしもその人につながっていれば、
その人は豊かに実を結ぶ。

ヨハネによる福音書一五章五節

イエス・キリストは御自分と弟子たちとの関係を、ぶどうの幹と枝とにたとえられました。幹から豊かな樹液を注がれて、枝は成長し、美しい実を結びます。人間は神の愛を注がれて真実な自分になります。ですから、枝が幹に「つながって」いるように、神の愛に「とどまって」いなさいと、すすめられています。

はその後約一年未熟状態です。この危機状態にある子どものために母親が愛情をもって育てると、子どもの中に「基本的信頼」が育ち、危機に直面しても挫けず、希望をもって進路を開拓して行く、人生の基礎が造られます。神の愛にとどまることは、霊的な「基本的信頼」に生きることでもあります。

教学担当常務理事

大宮 溥



財団法人 日本聖書協会
『みことばフォトブック 想い』より

訃報

一心より哀悼の意を表しますー

- | | |
|------------------------------|------------|
| 佐藤 ウメ氏
元小学部栄養士 | 2010年8月22日 |
| 狩野 歌氏
元中高部教諭等 | 2012年3月4日 |
| 岩原 さかえ氏
元中高部教諭等 | 2012年3月10日 |
| 中内 恒夫氏
元大学教授 | 2012年4月24日 |
| 清水 護氏
元短期大学教授等 | 2012年6月14日 |
| ミス・ジーン・マクドナルド
宣教師 元理事・評議員 | 2012年7月4日 |
| 近藤 充夫氏
元大学教授等 | 2012年7月11日 |

広報委員会よりおしらせ
学院報

「楓園」

ここが新しく
なります

1 楓園の発行は
年3回に

発行回数は今まで年4回でしたが、68号から5月、9月、1月の年3回に変わりました。そのうち9月号と1月号が「東洋英和楓の会」による同窓生全員への無料配布号となります。同窓生の定期購読制度はそのまま継続して行っていきます。

2 北崎 勝彦先生に
よる連載
「英和☆星空探訪」
スタート

中学部教頭の北崎先生は知る人ぞ知る天文通、ご自宅には天文台もご持ちです(ちなみに先生は社会科の先生です)。無限に広がる天文の世界を楽しくご紹介していきます。

3 読者との
交流ページ
「おたよりコーナー
TOYO Wa-Wa」スタート

連載「英和探訪」に代わって、70号(1月発行)から楓園読者の皆さまとつくる新コーナーができます。楓園へのお便りを毎号ご紹介してまいりますので、在校生の方も、卒業生の方も楓園へのご意見や英和に関する楽しいエピソードをお寄せください。

「TOYO Wa-Wa」へのお便りは…

〒106-8507 港区六本木5-14-40 東洋英和女学院法人事務局 総務企画部 まで
e-mail: koho@toyoeiwa.ac.jp でも、お待ちしております。

